

2. 公民館のまふりかえり

2月13日 館長杯 ペタンク大会

健康増進と交流を目的とした公民館長杯 ペタンク大会を体育館で開催しました。今年で22回目となります。参加者は36名。3名で1チーム、計12チームで競いました。ぼくはルールもよくわからず参加しましたが、簡単に誰でもできて、その分、みんなで楽しむことができるスポーツでした。持ってくる道具もありません。来年もぜひみんなでやりましょう。



おめでとうございます!

優勝	右田 喜世司さん、竹崎 勝子さん、寺本 由紀子さん
準優勝	寺本 重信さん、上田 ソモエさん、湯浅 和恵さん
第三位	上田 求さん、寺本 京さん、湯浅 孝史

2月22日 館長杯 ゲートボール大会

(すみません開催前に公民館だよりを書いてます)

ペタンク大会と同様、健康増進と交流を目的として屋内ゲートボール大会を開催します。20名程度が参加され、1チーム5名程度、計4チームで行います。「ゲートボールはあまりやったことがない」と言われる参加者もおられます。来年もありますのでぜひご参加ください。

これから

令和8年度「ひよりの会」会員の募集について

日和の65歳以上の皆さまに対して、入会案内を公民館だよりと一緒にお配りします。裏面の福祉の話でも触れましたが、大切に、そして楽しい集いの場ですのでぜひご参加ください。

3月22日(日) 公民館まつりを開催します

毎年開催している公民館まつり。普段から公民館を利用いただき活動されている団体等の発表と交流の場を目的としています。日和のみなさんに対して「日和のたくさんある活動にぜひ参加しませんか?」と知ってもらう機会でもあると思います。ぜひお越しください。

[出演者]

- ・大正琴教室
- ・ひよりの会
- ・運動教室
- ・なでしこ6の会
- ・ようこ劇団
- ・吟友会 日和支部
- ・日和大本神楽団

[出店]

- ・フレッシュ日和
- ・ファミリーバドミントン
- ・八十八(やそや)
- ・藤の屋
- ・日和青年部

※出演者、出店の内容に変更がある場合があります



日和公民館だより

令和8年2月20日 第267号 文責:湯浅

(2月号)



やっぱり、みんなで寄ると
楽しいですね!

0. 題字のま

今号の題字とイラストは、
門田 龍志 さん

題字をいくつか書いてくれていて、一番“味”があっただけいなと思ったものを掲載させていただきました。それと、バスケットとおにぎりとおオサンショウウオ(ですよね?)のイラスト。バスケットマンばいばい絵ですよね!

お話も聞いてます。

- ① 日和公民館の行事で楽しかったこと、教えてください
- 竹の貯金箱づくり (!)
- ② いまがんばっていること、教えてください
- バスケットボール

日和公民館はバスケットマンを応援しています! これからもがんばれ!

1. 日和のごと

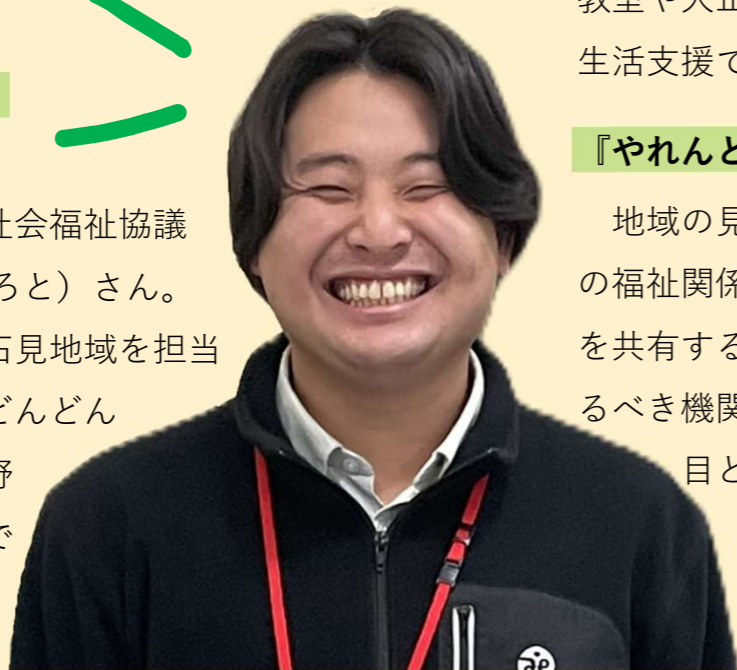


邑南町社会福祉協議会、役場 医療福祉政策課、保健課で連携した『やれんときの相談窓口』を周知するチラシが公民館に置かれています。チラシには相談の例として「歩いたり動くのがいたしそう」「近所のあの人最近なんか様子がちがう」と、どんな相談内容でもよさそうで、“どなたからの相談でも大丈夫”とのこと。そして、このような相談が「見守りの輪が地域をつなぐ」とあります。

日和では当然、ご近所、親族、友達のほか、組織や団体など様々なつながりの上で暮らしがあって、すでに見守りはあるように思っています。ただ、それでも安心して日々の暮らしが続いていくことが大切なので『やれんときの相談窓口』がどういうものか、町社協にお話を聞いてきました。

日和の担当者、上田寛人さん。
 ぜひ声をかけてください

お話を聞いたのは、邑南町社会福祉協議会 地域福祉課の上田寛人（ひろと）さん。現在、福祉活動専門員として石見地域を担当されていて、日和の地域にもどんどん入っていくのが仕事です。中野出身、23歳。野球人。写真でわかるように笑顔のいい方で



どんなことも親身になって聞いてくれます。（実は上田さんが小学生のときに「日桜ロード」の名前を応募・採用された命名者みたいです！）

上田さんは大学卒業後リターンでこの町に戻り、町社協での1年目を終えようとしているところでした。社協の仕事振り返ってみると「とても濃ゆい1年だった」「もっと目的をもって話を聞いていきたい」とこれからもっと地域の福祉にのめり込んでいくところみたいです。見かけたらぜひ声をかけてみてください。日和をもっと知ってもらいましょう。

あらためて“日和ってどんな場所？”

町社協などによる“福祉の視点”では「地域の福祉を推進していくうえで大事にしているポイント」があって、①集いの場、②生活支援、③相談・見守りの3点だそうです。これを日和に置き換えると、

- ① 集いの場 ⇒ ひよりの会
- ② 生活支援 ⇒ てごてご
- ③ 相談・見守り ⇒ 民生児童委員の取り組み

などの取り組みがあげられ、日和は福祉に取り組んでいく体制が整っていて、「他の地区の参考にしていきたい」ような地区だそうです。「福祉」という言葉だとイメージがぼやけてしまいますが、①②③のポイントで考えてみると、確かに日和には、他にもヒワココでの「ほっこり庵」などによる集いの場や、公民館での運動教室や大正琴教室もそれにあたる要素がありそうです。生活支援では「見守りスーパーにこ丸君」もありますね。

『やれんときの相談窓口』、大切かもしれません。

地域の見守りや支援をしていくために、町社協や役場の福祉関係の部署は「情報をキャッチすること」「情報を共有すること」を大切にされています。そして「しかるべき機関へつないで」いきます。そのなかで、第一歩目となる「情報をキャッチ」できないと地域を支援しようにも何も始めることができません。そのための『やれんときの相談窓口』です。

地域で上田さんがよく聞くこととして「こがぁなことで話をするのが耐え難い」という声があるそうです。「そがぁなことないです。どがぁなことでもいいので」と答えられるそうですが、本当に小さな気づきでいいので“やれんようになる前に”相談しておくことはこれからの日和でも大切だと思いました。

日和のなかでの、小さな思いやり

上田さんのお話から、「やれんときの相談窓口」は「やれんようになる前にできたことのひとつ」となるようなものでした。日々の暮らしのなかで、自身では動いていない心身の健康面につながる異変があるかもしれません。近所のことで気づいたときに直接何かしようにも動けないことのほうが多いと思います。そんなときにできることのひとつとして、相談窓口につないでみてください。人と人のつながりがある日和にはよく合う、思いやりを形にするような相談窓口だと思いました。



ヒワココ「ほっこり庵」
 こういう風景がある日和っていいですね。

もちろん、日和公民館にも相談してください。

やれんときの相談窓口の中身は、町社協、医療福祉政策課、保健課でまずは情報を共有し、心身の健康面につながる不安をできるだけとりこぼさないようにするというものです。もちろん日和公民館からでも同様に相談窓口につながります。最近見んようになったな、、、というようなことがあったら、世間話をしにちょっと公民館に寄ってお茶でもしながら教えてやってください。